これが鬼山城だ

城は鬼山(標高170m・比高50m)山頂に築かれている。北側と南側に城域が区分され、それぞれに階段状の曲輪(北に6段、南に3段)が配置されている。城の西側は切り立った崖に削り上部に土塁が続いている。

交通の要衝につくられている城であり、周辺地域をくまなく押さえることができる位置にある。

コンパクトな山城だが、主郭、切岸、土塁、掘、曲輪など、敵を防ぐための工夫がさまざまにこらされている。500年前の戦国時代の戦いの舞台となった様子が想像できる。

戦国の城 鬼山城の姿
1360年代(南北朝時代)～1570年代(戦国時代)築城

旧打穴川土手より鬼山を望む

打穴中「鬼山ふる里」いきいき会

交通の要衝にある

(鬼山城の出城か？)

天保美作国絵図に「鬼截山」とあるのは鬼山のこと

(**てんぽう みまさかこくえず**)　江戸時代天保9年(1838年)5月に幕府が作成した国絵図。当時の郡名・村名・石高や道，川，山，城などが記されている。

地名で鬼山城を探る(鬼山付近の地名)

(**おおて**)鬼山城の表門があったところ。

(**さんのう**)「日吉(ひえ)山王権現」の略。山頂に「日枝(ひえ)神社がまつってあり，村人らがお参りしていた。

鬼山、鬼山下、大手、山王、山王下、鬼山山王谷、山王谷、

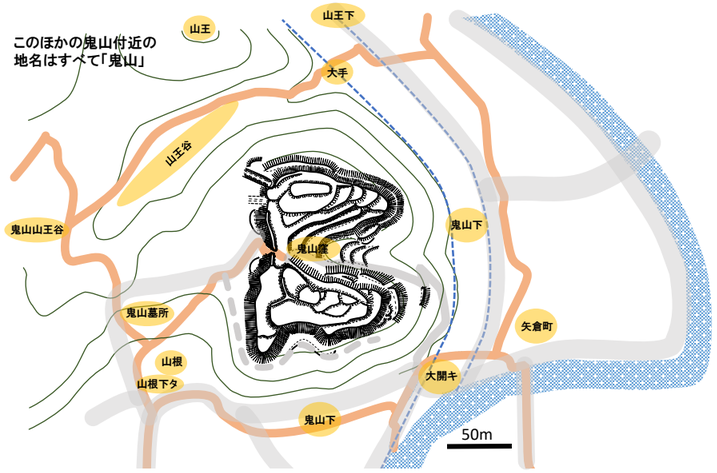
鬼山窪、鬼山墓所、山根、山根下タ、矢倉町、大開キ

(**やまね**)「山寝」のことか？武将や兵が普段住んでいた家があったところ。

(**やぐらまき**)矢をつくったり，矢の倉庫としたりしていたところ。

(**おおびらき**)大きく，新しく開拓したところ。

このほかの鬼山付近の地名はすべて「鬼山」



三峰山―鬼截山―鬼山―鬼城

「鬼山」は時代によって，あるいは呼ぶ人のよってその名を変えられているようだ。　(**みつみねやま**)「三つの峰が連なってできている山」との意味。(**きせつざん**)「鬼をたち切る」との意味。

桃太郎伝説ゆかりの地

鬼が棲んでいた山城

四、城　址

鬼　山　大字下打穴中

山上平地東西二十五間、南北五十間、一名「鬼城」或曰「鬼截山」

山名の由來　(傳説)

昔は三峯山と云つて居た。紀元一千八百年代保延の年、此の山に悪鬼現はれ種々災害をかもした。纔寺も此の時の災にかゝつたと云ふ事である。當時桃太郎と異名をとつた、豪傑が此の里に住んでゐた。或日單身此の山に登り、悪鬼と格闘し遂ぐるを追ひ一劍のもとに退治た。其の處が今の退治山である。桃太郎は意氣揚々凱歌をあげた。其の所が勝塚である。村民大に喜び村内安全の祝詞をあげた。其の處が所謂祝詞である。是れから三峰山を鬼截山と改め、或は鬼山とも云ひ、築城に及んで鬼城と云つた。

(作陽誌所載)

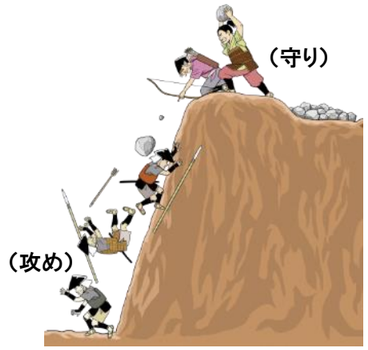
三保村史(昭和3年発刊)に載っている「桃太郎伝説」

土の城がおもしろい

どんなしくみで敵を防ごうとしたか？

味方（守り）の動き
敵（攻め）の動き

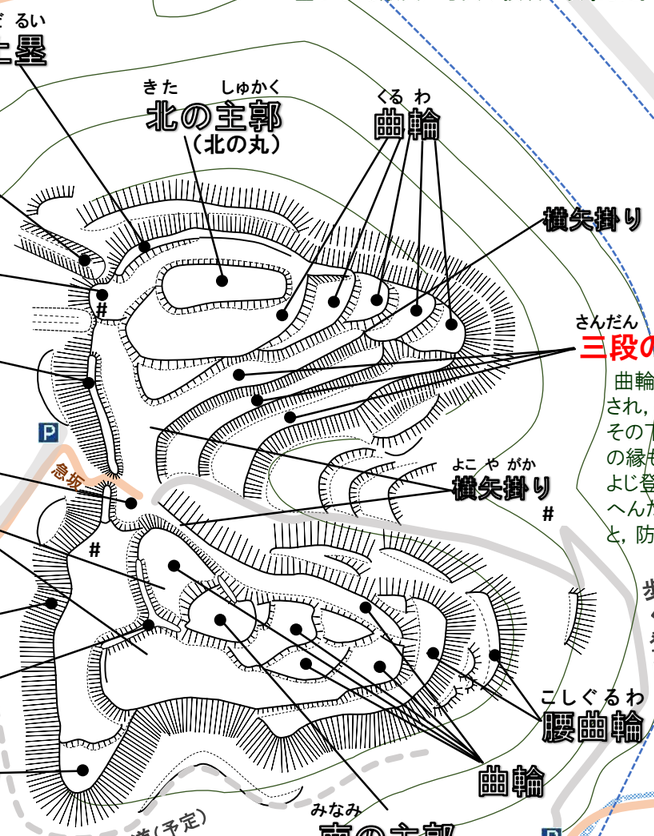
切岸（壁）と土塁で守る



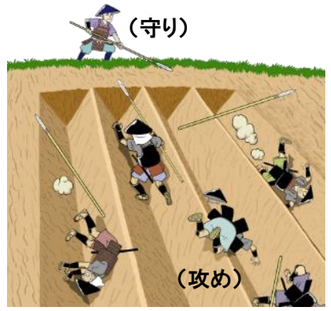
切岸　山の斜面を削りとって，人工的につくった崖。敵兵は簡単に登れないので，土の城にとっては大事なしくみのひとつといえる。
土塁　土を盛り上げて固めた（もとの高い場所を削りのこしてつくったものもある）頂上部にある土手。敵兵がよじ登れにくいし，より高いところから反撃できる。

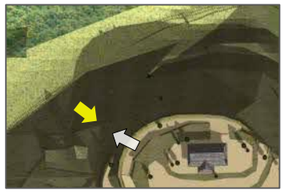
曲輪で守る

小さな尾根を平らに削ってある。北の山には段々状の曲輪が6段ほど，南の山には3段ほどあり，斜面を登ってくる敵兵に弓矢や投石で攻撃した。



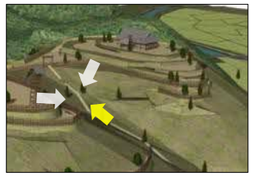
竪堀で守る

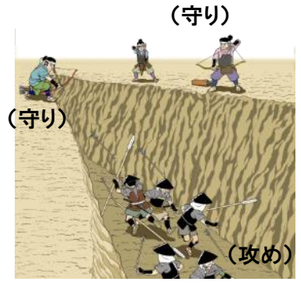




竪堀は山の斜面を縦に掘った溝のこと。登ってくる敵兵は，登りにくいし，横へ移動しにくい。

横矢掛りで守る





相手の横あいから弓を射かけることを横矢という。横矢掛けとは，横矢を射ることができるように，土塁を折り曲げたり，一部を飛び出してつくる工夫のこと。側面から攻撃し，攻めてくる敵をくいとめる。

出曲輪（物見場、のろし場）で守る

南の物見場からは，遠くに二上山（高陣峰）を望む。東～南～西と広角に見渡せる位置にある。平らに削った曲輪であり，物見やのろしをあげていた場所。敵が攻め寄せてくるのを見つけて，城に知らせていたのか。

鬼山のふもとに，城主とされる玉置玄蕃守一族の墓がある。

虎口で守る

虎口とは出入り口のこと。土塁・切岸に切れ目をつけて出入り口にしたもの。小さい出入り口「小口」が「虎口」になったという。
また，その下には急な坂道もつくられており，敵が一気に押し入れないようにしている。

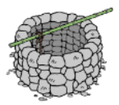
三段の帯曲輪で守る

曲輪の縁がザックリと削り落とされ，切岸（壁）になっている。その下に平らな曲輪ができ，この縁も切岸にしてある。切岸はよじ登って攻めこむ敵にはたいへんだし，それが三段にもなると，防禦力は強くなる。

打穴川や沼田など自然の要害で守る

打穴川が南から北へ，東へ大きく張り出して流れ，その内側に田が広がっている。昔は深い沼田で，水を引き入れると，天然の要害となり，敵は攻めにくくなる。

水・井戸で守る



鬼山城には16ヶ所に井戸が掘られていたと伝えられている。しかし，水を確保することは難しく，「山根」にわき水をためておき，山の上まで運んでいたとのこと。
江戸末期，鶴田藩が築城計画を立て工事に取りかかったが，飲み水の便がよくないということで取りやめになる。

● **戦国時代の戦いの舞台**

鬼山城は、正平17年（1362年）福依三郎左衛門重信によって再築城されたとされている。明徳2年（1391年）戦いに敗れ廃城となるまでの30年間、戦いの舞台となった。
戦国のころ、玉置玄蕃守が再度城を築き3万2千5百石を領した。天正2年（1574年）二上山高陣峰の城主尼子照平が攻めこんできた。玉置玄蕃守は350人で迎えうった。戦いは19時間に及び、多くの死傷者を出した。玉置玄蕃守は最後を覚悟して、一族を避難させ、自ら陣頭に立って奮戦し、討死した。落城することになったが、敵将尼子照平も戦死したのである。